



「家族で楽しむ少年野球」 目指せ! 未来のスター!

毛呂山オリオンズ



創立40年を向かえた毛呂山オリオンズ。数々の優秀な戦績を残しているオリオンズですが、2008年には参加した18大会中9大会に優勝しました。現在の団員は25人ですが、主に泉野小学校の児童が加入しています。

団では、野球を通じて、親子、指導者ともに成長することを目的にしています。礼儀を重んじ、あいさつはもちろん、チームワークに大切な協調性を養うよう指導しています。また、個々の持ち味を最大限に発揮できるようにその子にあった指導を心がけています。野球ができることに感謝し「どうせやるなら、一生懸命やろう。優勝をめざそう」を合言葉に、日々の練習に励んでいます。



オリオンズでは、指導者がすべてを教えるのではなく、上級生が下級生を指導する機会を設けています。基礎となるキャッチボールなどは、上級生が下級生の指導を行

います。これは、基本の大切さを認識するうえで重要なプロセスです。下級生にとっても、上級生からたくさんのごことを学ぶことができ



団員の応援をとおして、保護者家族が元気になり、まとまりができ卒団しても長く交流が図られています。保護者参加の運動会もあり、親子で楽しめる雰囲気があります。ぜひ、楽しい小学生時代を「毛呂山オリオンズ」で過してみませんか。家族ともども楽しめ

練習日 土・日・祝日の午前および

場所 泉野小学校グラウンド

会費 年額2万4000円(団費・後援会費)

問合せ 毛呂山オリオンズ ☎090

1868014338久保山

毛呂山歴史散歩 文化財シリーズ 225

科学の目で見た桂木の仏像

柚子で有名な滝ノ入桂木地区は、関東地方でも古くから仏教文化が花開いた奥武蔵の聖地として知られています。

桂木寺の原指定文化財「木造伝釈迦如来坐像」は、カヤ材の一本造で埼玉県内最古、関東でも指折りの古い仏像であるといわれています。

平成22年度、桂木寺の仏像をはじめ桂木観音堂の千手観音像など古像として知られている桂木地区の仏像について、科学的な方法による用材の調査が行われました。この調査は「日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究」と題した総合

研究の一環で、東京国立博物館、森林総合研究所、慶応大学などの各分野の専門家が調査にあたりました。用材調査の結果、桂木寺の仏像は、以前からいわれていたカヤ材であることが科学的にも証明され、また、桂木観音堂の木造僧形坐像も同じ

くカヤ材の一本造で、桂木寺の仏像に匹敵する古い仏像であることがわかってきました。

元来仏像は、白檀と呼ばれる香木で造るのが流儀とされていますが、その代用材としてカヤが用いられた。2体の仏像は、仏像の流儀に則って、同時期の10世紀初めごろに造られた可能性が指摘されています。

桂木観音堂の本尊千手観音像は、前の2体よりも新しい11世紀の作といわれていますが、ヒノキが使われていることがわかりました。桂木地区の仏像は、年代によって用材が変わっていく様子もみることができ

ます。最近の調査の成果は、明治22年岡倉天心らが創刊に関わり、現在でも刊行されている美術雑誌『國華』第一四〇一号で詳しく取り上げられています。



桂木寺木造伝釈迦如来坐像



桂木観音堂木造僧形坐像